

会 議 録

1 会議名

平成29年度第4回谷浜・桑取区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

【協議事項】

地域団体との意見交換会の実施結果及び今後の自主的審議の方向性について

(公開)

3 開催日時

平成29年10月3日（火）午後7時00分から午後8時03分

4 開催場所

上越市立谷浜・桑取地区公民館

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

・委員： 高橋誠一（会長）、安達ユミ子（副会長）、小林奎一、佐藤寿美子、
佐藤峰生、坪田 剛、寺島和枝、荷屋和夫、平野宏一、山田ヒロ子、
横田正美（欠席1名）

・事務局： 北部まちづくりセンター：滝澤センター長、荒木係長、千田主事

8 発言の内容

【滝澤センター長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【高橋会長】

- ・挨拶
- ・会議録の確認：横田委員に依頼

議題【協議事項】 地域団体との意見交換会の実施結果及び今後の自主的審議の方向性

について、事務局へ説明を求める。

【千田主事】

7月に地域団体と谷浜・桑取区の課題について意見交換会を行った。

意見交換会では、地域に来訪者を増やすための取組や空き家対策、人口減少対策などについて、様々な意見が出された。これまで地域協議会で出された意見に加え、更新したものが「参考資料」である。

- ・参考資料「地域課題に関する意見集約表」の更新された部分を報告（資料の網掛け部分）

これまでの審議や意見交換会を踏まえ、今後自主的審議として取り上げたい課題とその理由について、事前に挙げていただいたが、それらをまとめたものが、資料No.1である。

- ・資料No.1「自主的審議事項として解決したい地域の課題」に基づき説明

本日は、資料No.1について協議していただき、最終的に地域協議会として自主的審議事項とするかも含め協議していただきたい。

【高橋会長】

それでは、地域の課題として挙げていただいた4件について、提案された委員から説明していただき全体協議をしていきたいと思っている。

最初に「No.1 県道及び町内主要道路の環境整備」、「No.2 桑取川の中州や岸辺の環境整備」について、2件とも安達副会長から提案された案件なので説明をお願いしたい。

【安達副会長】

地域の特徴を見ると川や県道、国道8号に沿って町内があるので、その道と川の環境整備をできないかと考えている。私が考える環境整備というのは道に花を植えることではなく、定期的に草刈りをして道の端が分かるようにすることである。それだけでも、すっきりとして道路全体の環境が良くなるのではないかと考えている。

だが、県道は県、国道は国の管轄であり、要望してもすぐには整備を出来ないという話は聞いている。ボランティアで環境整備等を行っている町内もあるが、ボランティアの人たちだけでは出来なくなることも考えられる。

「No.2 桑取川の中州や岸辺の環境整備」については、草刈りは桑取地区の大淵町内会等でやっているが、刈った草を運び出すまでは出来ないというのが各町内の課題だったりする。そのままにしておくと雨が降った際、下流のほうにごみ流れ着き、下流の

町内にゴミが溜まってしまう。また、川の中にくるみの木やねむの木が繁茂しているが、そのままにしておいて良いのか疑問に思う。洪水でそれらの木が流されてしまったら、橋が壊れてしまう危険性も出てくる。だが、木を切るということは勝手にできないので、関係機関と話し合いをしていくようなシステムを作っていないといけない。一番良いのは、谷浜・桑取地域振興協議会に働きかけることなのだろうが、どのようにしたらそういうことができるのか。その辺を教えてもらいながら、何とかしていきたいというのが私の課題として挙げたものである。

【高橋会長】

では次に「No.3 地域の高齢者への対応」について、提案者である小林委員へ説明をお願いします。

【小林委員】

西戸野町内会は現在30戸あるが、20年後は10軒残るか、残らないかである。ほかの町内も似たような状況だと思うが、今、少子高齢化でお年寄りがどんどん増え、60歳以上が半数になるという時代になっていくと思っており、緊急の課題だと思っている。

【高橋会長】

では次に「No.4 人口（世帯数）減少」について、提案者である山田委員へ説明をお願いします。

【山田委員】

人口減少については致し方ないことだが、何とかしたいと考えていても方法がわからない。小林委員と同じようなところはあると思うが、皆さんと一緒に審議をしていき、良いアイデアが出れば良いと思い提案させていただいた。

【高橋委員】

今提案された課題は、これまで「子育て支援」で自主的審議として進めてきた問題も関連してくるし、何年前に松本市及び安曇野市に視察へ行ったが、最低限住めるような状態にしてある住居の付いた農園を都会の人に貸し、移住へのきっかけとして田舎体験ができる場所や、交通弱者の利便性の向上という観点で、デマンドバスを利用し高齢者が自由に動けるシステム作りを視察してきた。

住民団体との意見交換会の中で出された意見とも重なる部分があるので、自由に意見交換をしながら出された課題を自主的審議事項にしていくかを協議していきたいと思う。

【佐藤峰生委員】

No.3とNo.4に関連することだが、一人暮らしの高齢者が亡くなってしまうと空き家になるが、そういう問題に対して、事前に対応できないか、ということ意見を意見交換会の際に発言させていただいた。自町内に一人暮らしの高齢者がおり、以前、娘さんが来た際に「おばあちゃんが亡くなったらどうするのか」と聞いてみたが「家は取り壊すしかない」と言っていた。だが、この家の敷地はかなり広く、建物も大きく、車は7、8台止められるくらいのスペースがあり、家の回りに1アールくらいの畑がある。そのような敷地の家について、今後の具体的な使い方として、町内に点在している一人暮らしの高齢者の方たちを対象としたシェアハウスみたいな形で使ってはどうかと考えている。みんなで一緒に住むためにリフォームする等をして、現在ある家を何とか有効に使えないだろうか。親族の方が空き家になる前に何とかするということができないか。これはほかの町内でもあることだと思う。

ほかにも、リフォームすれば使えるのだが、20年来空き家で廃屋状態だった家が先月ようやく取り壊され更地になった。そういうものはやむを得ないと思うが、有効に使える空き家を先々に使えるようにして、理想的には、移住してくる人たち用に使えればとも思っている。若い人たちが移住してくれば人口も増える。

減ったところに移住してくれば、最低限人口を減らさないことはできる。そのために空き家を有効に使えるようにしていればと思う。事前に親族から空き家になった家をどうしたいのかを聞き、どのような回答でも対応できるようなシステム作りができればと考えている。

【高橋会長】

空き家対策については、先手を打ってやっつけていかないといけないと思っている。空き家になってからでは親族に連絡を取りたくても取れず話が進まなくなってしまう。

佐藤峰生委員の意見については、聞きづらい話になるがきちんと話し合いをしながら情報を集めていき、次の手を打っていくことも大事なことだと思っている。

【小林委員】

先ほども言ったが、西戸野町内では20年くらい経つと軒数が半分くらいになってしまう。それに対する空き家対策は、取り壊ししかないが、更地にすると固定資産税がかなり高額になるため、壊さないでそのままにしている人が多いとのこと。だが、本来は空き家になったら即撤去しなくてはいけないと思っている。

【高橋会長】

高田の寺町では古民家を再生してシェアハウスを造ったが、谷浜・桑取区でもそういう方法を含め自活できる人がシェアしながらお互い助け合って生活していくのも一つの方法だと思っている。

【坪田委員】

空き家対策をするにしても、きちんとした中で考えていかないといけない。金銭に困り行政や地域が何もしてくれなければ不動産屋に頼むという形になってしまう。そうすると地域に馴染まない人物で不特定多数の人が入る可能性もあり、地域でも把握することができない。

空き家対策をするのであれば、行政等と協力しながら最善の形で進めながら、対象となる空き家のリストを作り、地域を好んでくれて浸透できるような人に提供しないといけないのではないか。

【高橋会長】

有間川では、空き家を所有している方に対し、防災協力費を年に一度いただいているので、年に一回、必ず持ち主と連絡が取れている。

【山田委員】

長浜町内も住んでいない人からは1,000円いただいている。

【坪田委員】

長浜の場合、海があるので県外の人で海を目的とした人が特定の期間だけ使うという使い方をしている人もいる。地域の世帯数が増えても何の意味もないように思える。

【高橋会長】

町内会長を中心に情報を把握しながら町内会長連絡協議会等で頑張ってもらいながら仕組み作りをすることが一番なのかもしれない。

町内会長連絡協議会は年に一回しか開かれず、町内の課題を掘り起こして活動するというシステムになっていない。その辺も含め我々も協力したり、ほかの団体と協力したりしていかないといけないのかもしれない。

県道の問題についても、道路の拡幅は私が町内会長連絡協議会に在籍していた当時から大きな課題であった。他区の県道は整備されているが、当区の県道は、全く整備されていないということを前から訴えてきたが、なかなか進まない。交通事情が悪いため、当地域に住もうと考えている人が躊躇してしまう問題もあるかと思うので、当案件も含め

道路の環境整備を進めていくのも一つの手だと思っている。

【安達副会長】

先ほど小林委員が言っていた「更地にすると固定資産税が高くなる」という話だが、町場だと駐車場にして収入に繋がるだろうけど、この辺に駐車場を使っても需要がないだろうから、税金の減額措置や規制緩和も含め、市や県、国へ要望することも大事なのではないか。

【高橋会長】

名立や能生、早川の県道に行く機会があるが、当区のようにカーブが多くて細い道ではない。

【小林委員】

それらの地域は「町」の時代に交付金等を使って整備してきたとのこと。

【高橋会長】

現在工事している有間川の橋も、何年も前から要望していたが、現在の市長になってからようやく話が進み今に至っている。

【安達副会長】

私は道幅を拓げたいということではなく、道路の端がはっきり見えるくらいの整備をしていくだけでも環境が良くなるのではないかとと思っている。

【高橋会長】

だが、道幅が広い道路もあれば、すれ違いができないような道路もあるので、全て同じ道幅にしてほしいが、それすらしてもらえない現状がある。

【佐藤寿美子委員】

私は保育園バスの添乗をしているが、道路脇に草がかなり生い茂っているところがある。春は刈ってもらっているから良いが、秋になると草が伸びてきて、保育園バスは大型のため、対向車がスピードを出してくるとすれ違いも大変なので、草刈りをしてほしいといつも思っているが、誰に言えば良いのか。

【高橋会長】

草刈りは年一回になってしまったが、確かに何度か刈ってもらえれば助かる。たにはま公園は毎月刈っているが、それでも伸びてしまう。

【山田委員】

昔は何回か刈ってくれていたが、今は国道も全く刈ってくれていないように思う。

【佐藤寿美子委員】

せめてカーブだけでも刈ってくれないかと思っている。

【平野委員】

何をするにもお金が掛かるので、それをどうするかを考えなくてはいけない。

【安達副会長】

地域協議会として地域のために何とかしていかなくてはいけない。要望を出すにも、どこへ出したら良いのかが分からないので、教えていただきながら対応していきたい。

【山田委員】

各町内で刈っているところはあるのか。

【安達副会長】

刈っている町内はある。

【山田委員】

長浜町内の場合、東線のほうは年2回刈っている。

【安達副会長】

有間川でも刈っているが、刈っていただく方も徐々に大変になってくる。そうになると空き家になって潰れてしまいそうな家もあり、道も元々狭いのに草が生い茂ってもっと狭くなってくると、だんだん惨めになってくるなど思ってしまう。

【高橋会長】

市道に関しては比較的、町内で協力して草刈りをしているが、県道や国道になると部分的には刈るが、全体的なものは県や国がやらないといけないと思っている。

窓口としては、町内会長連絡協議会や振興協議会がなり、そこに地域協議会として働き掛けをしながら身近な課題を伝えていきたい。あとは、実質的に町内会長連絡協議会がどう動くかの問題である。

【坪田委員】

町内会長連絡協議会で動いていただき、単発的に各町内でやるのではなく、一括して一気に谷浜・桑取区全体で綺麗になるような取組はできないか。人員配置は町内会長連絡協議会内で平均的に割り当て、一斉にやったら、かなり綺麗になるのではないか。

【高橋会長】

地域の課題を解決していくためには町内会長連絡協議会が一番大事だということであれば、会長だけではなく、三役に来ていただいて意見交換会を行い、もっと具体的な活

動ができるようになれば、物事が少しは進んでいくのかもしれない。

【安達副会長】

桑取川の中州や岸辺について、気になるのは私だけか。

【小林委員】

そんなことはない。まずは道路の課題から話し合いをしているだけである。

【佐藤峰生委員】

先ほど予算の話も出ていたが、選択と集中である。地域の課題は極論を言えば一つに絞らないと駄目だと思う。今の最重要課題が何なのかということ。

【高橋会長】

川に関して言えば、有間川は橋から下の両側は町内会で刈っている。有間川は仕方なく草刈りをしているが、ほかの町内は川の淵まで刈ってられない。

【横田委員】

桑取会で年一回、7月頃に全町内で川清掃をやっており、中州の草刈りをやっている。

【佐藤寿美子委員】

子ども達のごみ拾いしながら歩いて回り、大人が自町内の川のところを草刈りしている。だが、時間が足りず、中途半端な状態で終わってしまう。

【横田委員】

人員配置をうまくやれば良いが、自宅前の川の部分しかやらないというところもある。

【高橋会長】

では、「No.1 県道及び町内主要道路の環境整備」については、両側の草刈りや側溝に関する整備について町内会長連絡協議会を窓口にして話をしていくということによろしいか。

【小林委員】

どこかに陳情するのか。

【高橋会長】

地域振興局へ行き陳情し、その後に県の土木部へ要望するので、2回くらいは町内会長連絡協議会から動いてもらわないといけない。

【小林委員】

過去にも陳情したことがあるのか。

【高橋会長】

毎年行っているが、「予算を付けられるように要望します」と言われるだけである。
一番良いのは、高田へ抜けられる循環道路を造っていただけるなら良い。

【安達副会長】

今、西谷内から中ノ俣に抜ける道を造っていると思う。

【横田委員】

今年から3か年計画で道路工事を行っている。

【高橋会長】

以前、事務局から配布された資料に人口データが載っていた冊子があったが、当区の高齢化率の比率が高くなっているデータが載っていたが、若い人がいなくなってしまうと相対的に上がってしまう。若い人から住み着いてもらい、子どもが多くなれば高齢化率は下がる。世帯数が減らないようにして子ども達の数が増えれば人口減少にも歯止めが掛けられる。

【小林委員】

小学校の児童数が50人から60人しかいないのに、これからはそれ以上に減っていく。その子たちが全て残るわけではない。

【山田委員】

子ども夫婦を呼び戻して一緒に生活できれば良いのだが、可能性としては低い。

【平野委員】

やはり、どのようにしたら戻ってきてくれるかを考えなくてはいけない。

【小林委員】

神奈川県にある多摩区でも40万人都市を創ったが、当初は、ある程度の人口になったら団地を造って若い人たちに入ってもらおう計画だった。そうしたら人口が増えていって、保育園が足りないほどになり、小学生も人数が多くなったが、親世代がそこに残り、若い人たちは出て行ってしまい、高齢化率が上がって行ってしまった。

先ほど高橋会長が言っていた松本市の視察研修の話だが、松本市の取組は永住ではなく、10年間貸出だから、常に若い人たちがいる。

【高橋会長】

桑取地区に温泉付きの賃貸住宅を造ってもらい、永住ではなく2、3か月住んでもらうというのも良いのかもしれない。

【平野委員】

活動するにもお金が必要なので、行政に頼むしかないのではないかと。

【高橋会長】

先ほど話した松本市の場合は、地主が土地を活用するために市と相談して造ろうという話になった。土地については、地権者と話し合い、活用してもらいたい土地を準備し活用方法を考え、アイデアを出し合ったとのことだった。

桑取地区も農業基盤整備をしており、湯ったり村の周りの田んぼもいつまで作れるかということもあるので、その辺を活用すれば同じようなことができるのではないかと。

また、有間川駅の上の山のほうに畑が多数ある。そこを活用すれば駅から近く、海もあるので釣りが好きな人には良い場所かもしれない。行政だけでは難しいので、土地造成する業者を含めてやってみたいという構想だけはあるが、果たしてやってくれる業者が出てくるか、市が乗ってくれるかは分からない。

いろいろな意見を出していただいたが、今日の話し合いからして、県道の整備をしながら、地域住民が住みやすい環境を作るということが大きな課題のような気がするので、町内会長連絡協議会へ提案しながら、話し合いの場を何度も持ち、県や国へ陳情することも含め活動していきたいと考えている。

今回、課題として挙げていただいた4件については、自主的審議事項として考えるのではなく、インフラ整備を進めていき、いろいろな関係機関と意見交換をしていきたいと思っている。

今までの話し合いについて、事務局からは何かあるか。

【滝澤センター長】

提案については自主的審議事項にはしないが、地域の課題として話し合いを進めていくということは承知した。

また、今回挙げていただいた地域の課題に対しては、地域活動支援事業において優先的に採択するという方法もあるかと思う。

県道については、どういう問題があり、誰が解決していくのか、ということをお次回以降の協議会で掘り下げていく機会を設けたいと思っている。

「No.3 地域の高齢化への対応」、「No.4 人口（世帯）減少」は繋がりがあっていると思うので、具体的にどのような課題があるのか今後協議していただきたい。

【高橋会長】

では、次回の協議会について事務局へ再度説明を求める。

【千田主事】

次回の協議会については、アンケートを取らせていただきたいと思うのでFAX等にて返信をお願いしたい。

【佐藤峰生委員】

事務局へお願いだが、空き家対策や移住対策等で成功している自治体があるかどうかを調べておいていただきたい。

【滝澤センター長】

承知した。

【高橋会長】

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 北部まちづくりセンター

TEL : 025-531-1337

E-mail : hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。